

生活交通確保維持改善計画(案)
(地域公共交通確保維持事業のうち地域内フィーダー系統関係)

(策定年月日) 平成 29 年 6 月 日
(策定団体名) 岡 崎 市

生活交通確保維持改善計画の名称

平成 30 年度岡崎市地域内フィーダー系統確保維持計画

1. 地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性

岡崎市の東部に位置する額田地域は、面積約 160 k m²、人口約 8,200 人の中山間地域であり、大きく 4 地区に分かれ、主要道路沿いから離れた場所にも住居が点在している。

モータリゼーションの発展に伴い、ほとんどの事業者バス路線が撤退し、運行している路線は名鉄バスくらがり線、桜形線 2 路線であるため、額田地域の住民は、通学、通院、買物など日常生活に支障をきたす状況である。

地域内の移動及び基幹路線と接続した広域的な移動を可能とするため、基幹路線の維持確保とともに、コミュニティバス及び乗合タクシー(以下、「コミュニティ交通」という。)の運行が必要である。

2. 地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果

(1) 事業の目標

額田地域コミュニティ交通の継続的な運行を確保し、一層の利用促進を図るために、次の評価指標を設定する。

○利用者数

利用状況を把握するために利用者数を基本指標とする。

(人)

年度 路線名	平成 26 年度 実績 H25.10～H26.9	平成 27 年度 実績 H26.10～H27.9	平成 28 年度 実績 H27.10～H28.9	平成 30 年度 目標 H29.10～H30.9	平成 31 年度 目標 H30.10～H31.9	平成 32 年度 目標 H31.10～H32.9
額田支所 市民病院線	7,814	7,611	7,822	7,822	7,822	7,822
下山地区線	4,485	4,409	4,979	4,583	4,583	4,286
形埜地区線	1,186	914	811	812	812	812
宮崎地区線	542	441	497	485	485	485
豊富・夏山 地区線	461	480	434	433	433	433
合計	14,488	13,855	14,543	14,135	14,135	13,838

【参考】下山学区内の高校生の人口

下山地区線は高校生の通学としても利用されており、高校生の人口が減少する見込みであり、平成 30 年度以降の目標数値は、実績値よりも低い数値に設定した。

(人)

年度	平成 29 年度	平成 30 年度 見込み	平成 31 年度 見込み	平成 32 年度 見込み
人口	17	14	14	11

○利用率

額田地域の人口は減少傾向にあり、利用者数のみでは利用促進の状況が把握できないため、1日当たりの利用者数と沿線人口をベースとする利用率も指標として設定する。

(%)

年度 路線名	平成 26 年度 実績 H25.10～H26.9	平成 27 年度 実績 H26.10～H27.9	平成 28 年度 実績 H27.10～H28.9	平成 30 年度 目標 H29.10～H30.9	平成 31 年度 目標 H30.10～H31.9	平成 32 年度 目標 H31.10～H32.9
額田支所 市民病院線	0.20	0.19	0.20	0.20	0.20	0.20
下山地区線	2.06	2.04	2.30	2.16	2.19	2.10
形埜地区線	0.34	0.34	0.30	0.31	0.31	0.32
宮崎地区線	0.27	0.37	0.42	0.46	0.48	0.49
豊富・夏山 地区線	0.06	0.15	0.14	0.14	0.14	0.14

※ 利用率(%) = 日利用者数 / 沿線人口 × 100

【参考】額田地域の人口の推移

5年間で人口が約5%減少している。

(人)

年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
人口	8,686	8,551	8,421	8,321	8,210

(2) 事業の効果

額田地域のコミュニティ交通を継続的に運行することにより、住民が日常生活を営むための移動手段が確保される。

これにより、住民が安心して日常生活を営むことができる。更に基幹路線と接続し、額田地域の住民と市街地の住民との相互利用が可能となり、額田地域全体の活力が向上する。

3. 地域公共交通確保維持改善事業の目標を達成するために行う事業及びその実施主体

事業	実施主体
1 公共交通に親しむ日の開催 次世代を担う子どもたちが公共交通に親しみ、公共交通の重要性を知ってもらう事業を開催する。	岡崎市交通政策会議
2 公共交通マップの製作及び配布 市内の公共交通の利用に関する情報提供を行う。	
3 バスの乗り方教室の実施 バス利用機会を創出し、バスの利用促進を図る。	

4. 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運行予定者

○運行系統の概要及び運行事業者

運行系統名	系統区間	運行事業者	主な 利用目的
額田支所市民病院線	額田支所前⇄ちせい台公園⇄市民病院	名鉄バス(株)	通勤、通学 通院、買物 など
下山地区線A	桃ヶ久保⇄市民病院⇄岡崎げんき館前	豊栄交通(株)	
下山地区線B	北部診療所⇄桃ヶ久保⇄市民病院⇄岡崎げんき館前		
形埜地区線	北部診療所⇒南大須公民館⇒須渕橋⇒麻生公民館⇒北部診療所	(株)西三交通	
豊富・夏山地区線	額田支所前⇄平針⇄寺野⇄額田支所前⇄星野クリニック	岡東運輸(株)	
宮崎地区線	宮崎診療所⇒木下公民館⇒千万町上⇒宮崎学区市民ホーム前		

○ 運行事業者の選定について

額田支所市民病院線は、現在名鉄バス(株)が運行している路線であり、市の公共交通ネットワークの一部として位置づけられている。当該路線に接続する他の公共交通ネットワークも名鉄バス(株)が運行しており、交通系 IC カード利用や乗継割引等の当該路線にも同一のサービスが提供可能な名鉄バス(株)を選定した。

その他の路線については、平成 28 年度中においてプロポーザル方式により運行事業者を選定した。

5. 地域公共交通確保維持事業に要する費用の負担者

確保維持事業に要する費用から国庫補助金額を差し引いた金額を、岡崎市が負担する。

6. 補助金の交付を受けようとする補助対象事業者の名称

- 名鉄バス株式会社
- 豊栄交通株式会社
- 株式会社西三交通
- 岡東運輸株式会社

7. 地域公共交通確保維持改善事業を行う地域の概要

○対象地域・・・旧額田町区域全域（山村振興法に基づく振興山村）

○対象地域の人口・・・8, 210 人（平成 29 年 4 月 住民基本台帳）

8. 協議会の開催状況と主な議論

○平成 28 年 6 月 28 日 平成 28 年度第 2 回岡崎市交通政策会議を開催

- ・岡崎市乗合タクシー「豊富・夏山地区線」運行計画変更(バス停の新設)の協議及び合意

○平成 28 年 10 月 17 日 平成 28 年度第 4 回岡崎市交通政策会議を開催

平成 29 年 10 月以降の運行について

- ・岡崎市乗合タクシー等「下山地区線」運行計画変更の協議及び合意
- ・岡崎市乗合タクシー「形埜地区線」運行計画の変更の協議及び合意
- ・岡崎市乗合タクシー「宮崎地区線」運行計画の変更の協議及び合意
- ・岡崎市乗合タクシー「豊富・夏山地区線」運行計画の変更の協議及び合意

→利用の少ない便を見直し、利用実態に合わせ診療後の帰りのバスの待ち時間の短縮等、診療所への通院の利便性がより向上するダイヤやルートに変更する見直しを行った。

○平成 29 年 1 月 23 日 平成 28 年度第 5 回岡崎市交通政策会議を開催

- ・地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について協議及び合意

- ・岡崎市乗合タクシー等「下山地区線」運行計画変更の協議及び合意
- ・岡崎市乗合タクシー「宮崎地区線」運行計画の変更の協議及び合意
- ・岡崎市乗合タクシー「豊富・夏山地区線」運行計画の変更の協議及び合意

→平成 28 年第 4 回岡崎市交通政策会議において合意した運行の見直し時期を、平成 29 年 10 月から 4 月に変更した。

○平成 29 年 6 月 29 日 平成 29 年度第 1 回岡崎市交通政策会議を開催

- ・平成 30 年度生活交通確保維持改善計画について協議

9. 利用者等の意見の反映状況

1. 運行の見直しについて

市民及び利用者代表が参画している岡崎市交通政策会議や、地域住民による各地域協議会及び額田地域生活協議会において、利用促進策やコミュニティ交通運行の確保維持の方策について意見交換・協議を行い、利用者等の意見を本計画に反映している。

特に、本計画の開始時期である平成 29 年 10 月に向け、過去 3 年間の運行を見直し、5 つの地域協議会では、全世帯を対象に利用に関するアンケートを実施し、集約した地域住民の意見等をもとに、各地

域協議会と市とでアンケート結果に合わせた見直しを検討した。

なお反映した主な内容は、以下のとおりである。

- ・市街地と中山間地区を結ぶ基幹路線バスへの接続をしやすいするため、乗継時間を調整した。
- ・診療所の帰りのバスのダイヤ変更や本数を増やすことで、待ち時間を短縮した。
- ・利用のほとんどない便や区間は廃止し他の曜日の便を増やす等、効率的な運行とした。

2、利用促進について

- ・バス停付近に駐輪場を整備することにより、バスと自転車との乗り継ぎ環境が改善される取組を実施した。
 - ・夏休み期間中は高校生の利用が減少するため、小学生を対象にスタンプカードを配付し、小学校のプール開放日にバスを利用し、支払った運賃の一部を地域が補填する取組を行った。
 - ・老人クラブにコミュニティ交通の利用を促し、バスを活用し市街地でのボウリングや、まち歩き等のレクリエーション活動を実施した。
 - ・利用者の増加及び収入の増加を図るため、地域がバスの回数券を購入し利用者に配付した。
- 以上のような取組を行うことで、コミュニティ交通の継続的な運行が図られている。

3、その他

「地域公共交通網形成計画」に基づき、額田支所の新たな交流機能の整備に合わせた額田地域コミュニティ交通の再編や利用環境の向上など、まちづくりとの連携を図っていく。

10. 協議会メンバーの構成員

学識経験者	愛知工業大学客員教授 名城大学教授
市民及び 利用者代表	岡崎市総代会連絡協議会 岡崎市老人クラブ連合会 岡崎市障がい者福祉団体連合会 岡崎商工会議所 岡崎市六ツ美商工会 額田地域生活交通協議会
交通事業者等	名鉄バス株式会社 名鉄東部交通株式会社 名古屋鉄道株式会社 愛知環状鉄道株式会社 公益社団法人愛知県バス協会 愛知県タクシー協会岡崎支部
地方運輸局	中部運輸局 愛知運輸支局
交通施設管理者等	愛知県西三河建設事務所 愛知県警察岡崎警察署
関係都道府県	愛知県振興部交通対策課
関係市区町村	岡崎市
その他会長が必要と認める者	豊栄交通株式会社 株式会社西三交通 岡東運輸株式会社

【本計画に関する担当者・連絡先】

（住 所）愛知県岡崎市十王町二丁目9番地

（所 属）岡崎市都市整備部交通政策課

（氏 名）成瀬 泰樹

（電 話）0564-23-6409

（e-mail）kotsu@city.okazaki.lg.jp